

# パンデミックで見えてくる 社会と〈私〉

コロナ禍において様々な社会問題が直接的・間接的に顕在化しました。とりわけ社会的に不利な立場にある方々を取り巻く諸問題への対応は、喫緊の課題だと考えられます。

本シンポジウムでは、実践者として地域で活動を継続されている方々をお招きし、望ましい社会のあり方と社会を構成する存在である〈私〉との関係について考え、分かち合う場としたいと思います。併せて『何が「社会的弱者」であるのか』という問いについても思索します。

2022年

**3月10日** 木 13:00~16:00

オンライン開催 (Zoomウェビナー)

**参加無料 事前申込制**

参加申込はこちらから <https://bit.ly/3royobK>



13:00~13:05 開会挨拶 金丸 裕一 社会システム研究所 所長/経済学部 教授

## 第一部/問題提起

13:05~13:35 **発題1**



### コロナ禍における生活困窮者支援

生水 裕美 氏 野洲市役所 市民部 次長

13:40~14:10 **発題2**



### パンデミックが映し出す「脱グローバリズム」地域社会構築の重要性

神田 浩史 氏 特定非営利活動法人 泉京・垂井 副代表理事

14:15~14:35 **発題3**

### 大正時代に猛威を奮った感染症に関する研究—スペイン風邪を事例に—

経済学部 細谷ゼミ4回生 (今川恵人、植田夏帆、勝又大希)

14:40~15:10 **発題4**



### 農村医療から世界を診る 良いケアのために

色平 哲郎 氏 JA長野厚生連・佐久総合病院 地域医療部 医長

## 第二部

15:25~15:55 **全体討論・意見交流**

15:55~16:00 閉会挨拶 河音 琢郎 経済学部 学部長・教授

### 注意事項

- ・本シンポジウムの参加に必要な電子機器・視聴環境の準備は参加者にてお願いいたします。
- ・録画・録音・転載等はかたくお断りいたします。
- ・プログラム内容は変更となる場合がございます。

【主催】立命館大学社会システム研究所 【後援】立命館大学経済学会

### 【お問合せ先】

立命館大学社会システム研究所 事務局 (立命館大学BKCリサーチオフィス内)  
担当/三木・山脇 [social-s@st.ritsumeikan.ac.jp](mailto:social-s@st.ritsumeikan.ac.jp)

